

第 29 回コーデックス委員会総会の審議結果（概要）

海産二枚貝（カキ、ホタテを除いたもの）、頭足類（内臓を除去したもの）
及び精米に含まれるカドミウムの最大基準値

(i) 軟体動物中のカドミウム最大基準値

52. EC 代表団は、食品添加物・汚染物質部会は第 38 回会合において、第 28 回総会がステップ 5 として採択した 1.0 mg/kg を検討するために議論を始めたと言言した。当代表団はカドミウムの摂取量は合理的に達成可能な範囲でできるだけ引き下げるべきであるとの考えを表明し、正当な理由なしに、委員会がより高い基準値である 2 mg/kg を最終採択することに反対した。
53. この点に関して、オランダ代表が部会の議長の立場からの発言として、三つの異なる基準値を設定した場合の摂取量の変化の評価が第 64 回 FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議（JECFA）において行われたこと、基準値案 1 mg/kg と一つ高いレベルである 2 mg/kg との間に平均カドミウム摂取量に関してほとんど差がないという結論が得られたことを考慮して、部会はより高いレベルである 2 mg/kg で合意したことを説明した。
54. 委員会は、海産二枚貝（カキとホタテガイを除く）及び頭足類（内臓を除いたもの）に関する最大基準値 2 mg/kg を、部会の提案どおりステップ 8 として最終採択した。EC 代表団は、この決定に対して留保を表明した。

(ii) 精米のカドミウム最大基準値

55. 多くの代表団は、0.4 mg/kg が消費者の健康を十分に保護すると結論づけた第 64 回 JECFA の摂取量評価を引用しながら、部会が提案した精米中のカドミウム最大基準値の 0.4 mg/kg の最終採択を支持した。
56. それ以外の数カ国の代表団は、第 64 回 JECFA の摂取量評価結果が、いくつかの国や地域の食生活パターンの相違や子供などの脆弱集団に対するカドミウム摂取を考慮しておらず、米を主食とする国では基準値案は受け入れられないとして懸念を示した。
57. FAO と WHO からの出席者が、JECFA 事務局を代表して、JECFA の評価には 13 地域の食品消費量が用いられたこと、ベースラインの摂取量が最も大きくなるシナリオでも推定摂取量は PTWI の 34%に留まっていることを明らかにした。
58. EC 代表団は、0.4 mg/kg の濃度でカドミウムを含むコメはきわめて限られた地域でしか生産されないことからそのようなコメが国際的に貿易される見込みがないと述べ、この基準値案の採択に反対しなかった。
59. 議論の後、委員会は精米中の最大基準値 0.4 mg/kg をステップ 8 として最終採択した。この決定に対して、エジプト、ホンジュラス、ナイジェリア、ノルウェー、カタール、シンガポール、U A E の代表団が立場を留保した。